

まちづくりをになう住民の学びに関する研究 —桜川市真壁における町並み保存のプロセスを通して—

下田 春奈*

1. 本研究の目的

近年少子高齢化などの課題を受けて、各地での「まちづくり」の動きが活発である。社会教育の分野もまちづくりに関わる分野の一つであるが、社会教育が重視する「学び」はどのようなテーマで取り組んだとしても、見られるものである。まちづくりにおいて社会教育的営みを位置づけていくべきであるというのが本研究の出発点である。

本研究で取り上げるのは歴史的・伝統的な町並みの保存を通したまちづくりである。事例にする茨城県桜川市真壁は、住民主体で町並みの保存運動が行われた経緯を持ち、現在進行形でまちづくりが行われている地域である。聞き取り調査によりここでの動きを検討することで、上記の課題について考える。

2. 構成

序章 研究の目的と方法

第1節 研究の目的

第2節 研究の方法

第1章 まちづくりと社会教育

第1節 まちづくりにおける社会教育の視点

第2節 まちづくりにおける住民の学び

第2章 町並み保存のまちづくりの意義

第1節 まちづくりと景観

第2節 伝建地区制度とまちづくり

第3節 町並み保存のまちづくりの意義

第3章 町並み保存のまちづくりの過程—桜川市真壁を事例に—

第1節 真壁の概要と町並みの歴史

第2節 真壁の町並み保存のプロセス —ディスカバーまかべの活動を軸に—

第3節 ディスカバーまかべのまちづくり

* 筑波大学人間学群教育学類4年

第4章 真壁のまちづくりの展開

第1節 真壁、八七咲き社中

第2節 桜川本物づくり委員会

第5章 真壁のまちづくりにおける地域の学び

第1節 地域をつなぐ 一本物づくり委員会の役割―

第2節 まちづくりにおける世代交代のプロセス

―一次世代の育成―

終章 本研究のまとめと課題

第1節 本研究のまとめ

第2節 本研究の課題

3. 概要

第1章では、地域の関係性を構築する営みと学びを検証する社会教育の視点を示した。また住民の学びとしてとらえられているもののなかから、地域における世代継承と、矛盾や葛藤を克服していくプロセスが重要であるとした。

第2章では、伝統的建造物群保存地区制度とまちづくりの関係を見ることにより、町並み保存のまちづくりの意義を明らかにすることを試みた。町並みの保存は都市の個性を維持確立することによる地域再生の手段とされているが、保存の過程では住民の参加機会が多く地域関係性が築かれるといえる。高齢化と空き家などの課題の困難さ、また伝統や歴史ある地域への愛着と誇りの強さから、町並み保存のまちづくりには特に住民の学びが表れるのではないかという仮説を提示した。

第3章からは真壁を事例に、まちづくりに取り組む3つの団体の活動について検討した。第3章では町並み保存運動の経緯と聞き取りの結果から、一貫して町並みを活かしたまちづくりに取り組むディスカバーまかべの活動についてみた。第4章第1節では真壁、八七咲き社中の視察内容の分析から、経済を意識したまちづくりを目指す団体であり、ディスカバーまかべと方針の違いがあることが分かった。第2節では2つの団体の差異を認識し、さらに歴史あるまちである真壁だからこそ見られる地域内の確執を乗り越えようとする桜川本物づくり委員会の、地域内の交流をねらった活動の意図を見た。

第5章では真壁のまちづくりにおける学びとして、若い世代の団体である本物づくり委員会が地域をつなぐ役割にあることを示し、先行世代の住民における立場の違いを融合する可能性に注目した。先行世代の関係性を変え、地域を変えていくことができるのではないか。さらに真壁においては先行世代の住民が意識的に次世代を育成していることが重要であり、それによってまちづくりが継承されてきたことが分かった。開発の波から取り残され、伝統が続く地域

において、住民の関わり合いのなかで地域がつくられていくプロセスが明らかになった。

4. 主要参考文献

- ・日本社会教育学会 60 周年記念出版部会編『希望への社会教育—3. 11 後社会のために—』東洋館出版社、2013 年。
- ・松田武雄編著『社会教育・生涯学習の再編とソーシャル・キャピタル』大学教育出版、2012 年。
- ・斎藤英俊ほか「特集 伝統的建造物群保存地区—この一〇年、これからの一〇年—」『月刊文化財』559 号、第一法規、2010 年 4 月、4-35 頁。
- ・河東義之・藤川昌樹『真壁の町並み—伝統的建造物群保存対策調査報告書—』桜川市教育委員会、2006 年。